

第8期みらいくる会議第1回会議（委嘱状交付式）概要

令和4年6月6日(月) 午後2時～4時 区役所第1委員会室

議事内容

- ・委嘱状交付 15名の委員に対し委嘱状を交付（1名欠席） 委員名簿は別紙のとおり
- ・委員自己紹介および事務局職員紹介
- ・委員長および副委員長選出、挨拶 金藤委員長 杉本副委員長
- ・区長挨拶 樋口高顕区長
- ・みらいくる会議の概要説明 柳所長
- ・千代田区のごみの現状説明 柳所長
- ・第4次千代田区一般廃棄物処理基本計画進捗状況説明 柳所長
- ・みらいくる会議の進め方等について
- ・その他 事務連絡

主な質疑応答

○千代田区のごみの現状について

- ・家庭用ごみ処理機購入助成について

問 機械の値段はどのくらいのものが多いのか

令和2年度は前年の倍の利用になっているが、これは住民のごみに対する意識の向上が原因なのか？

処理後は肥料として使用しているのか？

これからも増加が見込まれるのか？

答 概ね5～7万円程度のものが購入されている

コロナ禍での、ステイホームの影響が大きいのではないかと

肥料としての利用や乾燥させてのごみ減量を行っている

令和2年度と同等の利用を見込んでいる

- ・ごみの組成調査について

問 ごみの組成調査結果での分別の適正、不適正というのは家庭系ごみと事業系ごみ別々に算出しているのか？

答 それぞれ区分した形で算出しているが、今回の資料は合算したもの。区分しての算出したものは次回以降とさせていただく。

- ・ごみの現状についての区の認識

問 区としてはごみの減量は十分されているとの認識なのか？ どう評価しているのか？

今、どういう状況にあると考えているのか？

答 ごみは減少していると考えているが、コロナ禍の影響もあり、想定外の現象が生じているという認識だ。様々な取り組みを行い、効果が出てきているが、満足せず、さらに廃ブ

ラ等新たな課題も出てきているので、一層努力して循環型社会の実現に努力していく。

問 コロナ禍でごみは全体としては減少してきているが、増えているものもあるが、これは誤差の範囲なのか？

答 粗大ごみが増加している。ステイホームで家庭内にいる時間が増えて断捨離を行っている人が多いと捉えている。

・働き方がコロナ禍で変わったことによる影響

問 コロナ禍による働き方が変わったことの影響は？本社機能の地方移転でごみは減るのではないかと？働き方が変わったことの影響を区はどのように考えているのか？

答 確かに空きオフィスが生じてきている。一方このところ住民数は増加している状況もあり、住民が増えればごみは増えるので、それらをセットで考えていく。

他の委員から情報提供＞ 丸の内では 2020 年の緊急事態宣言で通常の 40%の人出になった。2021 年ではリモート会議による対応で、会議でのペットボトルや紙資料がなくなり、ごみは減少している。2022 年になって、オフィス集約の動きが出てきた。これまで他地域に分散していたオフィスを千代田区の本社に統合する形が増えている。全員が出勤しないからこれまで 100 人のオフィスに 150 人とか入れられる状況になっている。そう考えるとごみの量としては楽観視できないのではないかと。

○第 4 次千代田区一般廃棄物処理基本計画進捗状況について

・資源化率について

問 家庭系ごみの資源化率が事業系ごみに比べてかなり低いと、分別ができていないということか？改善の見込みはどうか？

答 清掃事務所でも、分別の周知ということで様々な努力をしている。町会等に入って、あおぞらふれあい相談&回収という事業も実施している。

問 資源化率について、家庭系ごみの資源化率が 30%くらいだが、これはあと 70%資源化できるものができていないということではなくて、いろんなごみがある中で資源化できたのが 30%だったということなのか？

答 その通りです。

・一人当たりのごみ排出量について

問 一人当たりのごみ排出量の目標値が 352 g であるが、他の地域と比べてかなり低いように思う。どのように算出しているのか（日本の平均で 900 g ぐらいだと思いが）？

答 次回回答する

・ごみの分別について

問 ごみをどの区分で出せばよいのか、わかっていない部分があった。やはり周知が大切では？

答 啓発、周知に力を入れないといけないと認識している。この会議でも以前より PR の方法について検討をいただいたが、引き続きご意見を頂戴したい。

他の委員から関連して> PRは簡単なようで一人一人に認識してもらうのはとても難しい。子供のうちからそういった教育を行い、関心を持ってもらうことが必要だと思う。環境教育の視点を組み込んでいくことに、当大学を使ってもらって問題ない。私のゼミでもこうした教育にあたってカードゲームやボードゲームを使って楽しく学ぶということを、工夫しているところだ。理解してもらう形のPRのほうが、根付くのではないか。

○みらいくる会議の進め方について

事務局からの要望

年3回ほど2年間で6~7回の開催で、最終的には区長に報告、提言していただく。

今年度策定する「災害時の廃棄物処理計画」についてぜひ意見を頂戴したい。

食品ロスの問題についても取り組んでほしい。

※災害廃棄物処理計画とは 災害に備えて、廃棄物の処理について事前に処理計画を作成しておくもの。大きくは、建物の損壊による解体がれきと避難者が出す避難所ごみについて、その処理の方法を定めるもの。

○その他のご意見

問 各クリーンセンターの助燃剤の使用量についてデータで出してほしい。

答 中間処理をしている東京23区一部清掃事務組合がやっているのので、資料を取り寄せて提供させていただく。

燃やすごみと資源ごみの判別について

問 同じ紙製品でも、燃やすものと資源になるものがあり、その基準がわからない。

答 例えば卵のパックに使用している段ボールは、下ボール（品質の悪い段ボール）でもう再生ができないので燃やすごみになっている。

委員から関連で> そういうことは一般の家庭の方はわからない。メーカーがどう作ったか、それをどう資源にしていくのかを伝えないと、難しい。この会議でもそこを追求していく必要があるのでは。

冊子の中に簡単な注意書きを盛り込んでいくと良いのではないか。理由を書いてあると理解しやすい。

キノコの菌糸で容器を作るベンチャー企業がアメリカにあるらしい。そういう(分別が)わかりやすい資源で作るということも提案すべきなのかも。ほっておけば土にかえる、そのような、わかりやすくする新技術、新製品の提案を。

ごみ処理と温暖化の関係性、地球温暖化対策、ごみの排出抑制と二酸化炭素の排出量の削減の関係についても議論したいし、データがあれば欲しい。

ゼロカーボン、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーといったことが、区と

して進められるのか、この区民会議で進めるという方向性を提案できるのか、何らかの関係づけができれば、会議での考え方を区の政策に生かせるし、区長にも納得してもらえるものが出来上がるのではないか。